

2022(令和4)年度
江東区 児童館・公民館フィールドスタディーズ
活動報告



2022年(令和4)年度 江東区 児童館・公民館FS活動報告書

学籍番号	〈氏名・学部学科〉	〈実修受入先〉	〈ページ〉
1	2238089 林 愛乃(教育学部幼児教育学科)	南砂児童館……………	1
2	2216063 乳井 日菜多(グローバル学部日本語コミュニケーション学科)	南砂児童館……………	2
3	2222085 瀬谷 彩実果(データサイエンス学部データサイエンス学科)	小名木川児童館……………	3
4	2237032 清水 星那(教育学部教育学科)	小名木川児童館……………	4
5	2222025 田出 姫慧(データサイエンス学部データサイエンス学科)	亀戸第二児童館……………	5
6	2233113 竹川 花蓮(人間科学部社会福祉学科)	亀戸第二児童館……………	6
7	2222018 杉浦 壮真(データサイエンス学部データサイエンス学科)	亀戸第三児童館……………	7
8	2238068 島田 倭杏(教育学部幼児教育学科)	亀戸第三児童館……………	8
9	2220140 池田 宙樹(経営学部経営学科)	東砂児童館……………	9
10	2222059 吉井 茜音(データサイエンス学部データサイエンス学科)	亀戸児童館……………	10
11	2231217 川松 美咲(人間科学部人間科学科)	亀戸児童館……………	11
12	2222023 高多 陽凧(データサイエンス学部データサイエンス学科)	千田児童館……………	12
13	2213209 栗山 佳大(文学部日本文学文化学科)	千田児童館……………	13
14	2213094 福井 希望(文学部日本文学文化学科)	辰巳児童館……………	14
15	2231074 高田 春菜(人間科学部人間科学科)	辰巳児童館……………	15
16	2233039 瀬崎 奏音(人間科学部社会福祉学科)	東陽児童館……………	16
17	2213038 隈本 咲月(文学部日本文学文化学科)	東陽児童館……………	17
18	2247043 梅田 皓亮(工学部建築デザイン学科)	江東公会堂(ティアラこうとう)……	18
19	2263106 佐々木 ゆり子(看護学部看護学科)	江東公会堂(ティアラこうとう)……	19
20	2231087 中村 愛貴(人間科学部人間科学科)	塩浜児童館(実修中止)	

江東区 児童館・公民館フィールドスタディーズの活動報告書について

コロナ禍が心配される中、江東区の10の児童館、公民館でフィールドスタディーズの実修を無事行うことができました。実修後の活動報告会では、学生たちから児童館や公民館という公共施設での活動を通して、様々な思いをもった区民が来館し、多様な価値観や新しい発見に気付くことができた有意義な実修であったとの報告がありました。

本報告書は、3年ぶりのFSを通しての学生の意見をまとめたものです。活動報告会では、児童館は児童が来て遊ぶだけでなく、子育てサポートや地域情報の交換、外国人への対応や乳幼児プログラムなど多様なニーズに応える工夫がされていることが分かった。公民館も多様な区民が活動していることが分かるだけでなく、社会人の視点をもって考え、子どもたちの教育の問題や地域連携の大切さ等にも気付くことができた。最初から積極的に話しかけて行動すると良かった。しっかりとした挨拶や礼儀、そして落ち着いた行動や笑顔での接客が大切だった。お客からの学生とは思わずにクレームの対応もあり戸惑ったが、充実した良い経験ができた等の意見が出ていました。このような充実した学びができたのも、江東区の児童館及び公民館の職員の皆様のおかげです。改めてお礼を申し上げます。

フィールドスタディーズでは多様な学部、学科の学生たちが社会に出て、体験を通して、自らの学びや進路、生き方を考え、今後の学びの一助とすることも求められていることです。今回の活動を生かして、学生たちには、自らの考えをしっかりとをもって活躍の場を広げてほしいと思います。

また、今回の報告書では、次に続く後輩たちへのアドバイスも書き加えてもらいました。自分たちの反省も踏まえ、どのようにしたらより良かったのかを改めて考えてもらい、後輩へのアドバイスという形で表しました。本年度の活動の経験が原点となり、後輩たちに繋げるとともに、学生自身にとっても今後のさらなる活動や学びの充実には繋げてほしいと思います。(担当:高波瀬 彩、叶 雅之)

南砂児童館の温かさ

教育学部幼児教育学科 2238089 林 愛乃

施設実修を終えての感想・反省

この実修を通して、児童館という施設が子どもたちにとってとても大事な場所であることを実感しました。私は、子どものころ「児童館に遊びに行く」という経験がなく、児童館でどのように子どもたちが過ごしているのかわからなかったため、実修前はとても不安でいっぱいでした。一日目、児童館が開館し、子どもたちが遊びに来て一人で遊んでいる子、友達と遊んでいる子がいてはじめは声をかけるべきか迷いましたが、児童館の先生がフォローしてくださり子どもたちと一緒にゲームをしました。一緒にゲームをしていく中で少しずつ心を開いてくれるのが分かりとてもうれしかったです。なぜ子どもたちがすぐ心を開いてくれたのか考えた時、「一緒になにかをすることで感情を共有することでできたからではないか」と考えました。一つのゲームが終わったころには「次はこれをやろう」と提案してくれたことで自分自身も子どもたちのおかげでリラックスして子どもたちと過ごすことができたと思います。南砂児童館では様々な種類のゲームや、卓球、フラフープ、最新の漫画や本など子どもたちがやりたいことを見つけやすい環境が整っていると感じました。

また、私が実修の中で驚いたのは「学年が違う子どもたち同士のコミュニケーションが多く、当たり前のように一緒に遊んでいること」でした。普段から一緒に遊んでいるようで途中から児童館に来た子も自然と遊びの輪に入れるような空気がとても良いと感じました。また年上の子が年下の子に合わせて遊んでいる姿も見られ、児童館での遊びを通して社会性を学ぶことができているのではないかと感じました。一人で児童館に遊びに来て、すぐに輪に入れてもらうことができ遊ぶことができる児童館は、子どもにとって安心できる心の拠り所になると思います。



子どもたちにとって安心できる心の拠り所が家庭以外にあることは、悩みごとや困ったことを相談しやすくなるため、とても大事なことだと思います。

実習の中で子どもたちの素直さや、一生懸命気持ちを伝えてくれる姿に私も自然とリラックスして一緒に遊ぶことができ、心から楽しいと思うことができました。最終日には、子どもたちが手紙や折り紙を作ってプレゼントしてくれました。家で準備したことを伝えてくれたり、前日に話した私の好きなキャラクターを覚えて書いてくれたり、本当に温かくて南砂児童館の実習に参加することができて本当に良かったと心から思いました。この実習で学んだことをこれからの学生生活にも活かしていきたいと思っています。



後輩へのアドバイス

児童館では、「子どもたちが安心して過ごすことができる環境」を作ることが重要だと感じました。子どもたちが安心して過ごすためには、児童館の先生方と遊びにくる子どもたちの信頼関係が必要不可欠です。子どもたちとの信頼関係はすぐに築くことはできません。子どもたちの声をしっかり聞き、コミュニケーションをとることで少しずつ信頼関係が築けると考えました。

実際に実習に行き、児童館に幅広い年齢の子どもたちが利用するため、それぞれの年齢にあった子どもとの接し方を身に着けることも児童館の職員に必要な力だと感じました。私は将来保育士を志望しているため、小学生、中学生との関わり方をこの実習で少しですが見つけられたと感じました。

南砂児童館での3日間の活動を通して

グローバル学部日本語コミュニケーション学科 2216063 乳井日菜多

施設実修を終えての感想・反省

今回3日間という少ない期間の中でしたが、多くの経験をする事ができました。近所に児童館がなかったため場所の新鮮さがあり、また幼児から高校生まで幅広く施設を活用し年齢関係なく関わりを持つことに驚きました。私自身アルバイトで塾講師をしており、小さい子たちと関わる機会がありますが、それよりも近い関係で主に小中学生と一緒にゲームをしたりスポーツをしたりでき、とても嬉しかったです。この南砂児童館ですごいと思ったことは、子供たちの優しさとお人懐っこさです。一緒にゲームをしていた時に、自分が勝った後でもまだ途中の子たちがいたときにどうやったらあがれるかを一緒に考えて手伝っていました。普通、ゲームは勝てたら喜んでおしまいというイメージがありましたが、みんなで最後まで頑張るという考えがとても優しいと感じ、それが1人ではなく多くの子ができていたことがすごいいいと思いました。また、初めて児童館に行った日から多くの子たちが一緒に遊ぼうと誘ってくれて、児童館の時間が終わるとまた遊ぼうねと言ってくれました。3日間しか関わる事ができませんでしたが、最後の日には手紙をくれたり、イラストを描いてくれたりしてくれました。職員の方々の前で感想を言う時に、子供たちが家で一生懸命描いてきてくれたこと、どうやって渡すか悩んでくれていたことを教えていただきました。1日1日とても濃い時間を過ごす事ができましたが、3日間では短すぎてもっと一緒にいたいと思うほど素敵な時間を過ごさせてもらいました。今回の反省は多くの子もたちと一緒に遊ぶことが多かったのでひとりひとりの話をしっかり聞いてあげることができなかつた点です。嬉しいことに9時から18時までの時間全て子供達が遊びに誘ってくれていたので広く関わることはできましたが、1人ずつ話をできる時間は少なかつたと思います。児童館で働く方々が子供たちに向き合っていて悩み相談を受けていたりしていたのを見て、本当にすごいいいと感じました。今後このような機会はなかなか訪れませんが、児童館の方々のように信頼して相談をしてもらえようになりたいと思います。



後輩へのアドバイス

今回の活動は3日間だったので短い期間で施設を利用している子供たちと仲良くなることを特に大事にしながら取り組みました。南砂児童館の子たちは早い段階からとても仲良くしてくれるので沢山遊ぶことが出来ますが、一人一人何をしたいかは違うのでみんなのやりたいことを順番にみんなで遊ぶように気を付けると1人になってしまう子が出ないように出来ると思います。また、室内で遊ぶので涼しいのですが、卓球や縄跳びなどの運動も出来る施設なので水分補給をこまめにとりながら子供たちにも水分補給をとるように言ってあげるといいと思いました。最後に、子供たちの中にはすぐに話しかけてくれる子や人見知りしてしまう子、年齢なども様々なので、一人一人にあった関わり方を考えることが大切だと思います。私は特に人見知りの子と話すときに、初めはその子の得意なことを聞いて絵でも何でも一緒にやってみるようにしました。ただ話すだけでは緊張しやすいので作業をしながらだと話しやすいかなと思います。その中で、得意なことはやはり上手なので、やりながらどうしたらうまくできるのか聞いたり手伝ってもらったりしてだんだんと距離を縮められると思いました。

小名木川児童館でのFSを終えて

データサイエンス学部データサイエンス学科 2222085 瀬谷彩実果

施設実修を終えての感想・反省

① 普段の児童館

小名木川児童館は周りにアパートが多いからか、毎日たくさん子どもたちが来てくれました。私は基本的に清掃、子供と遊ぶこと、事務をさせていただきました。清掃では、雑巾の使い道のよって明確に区別すること、小学生以下の子が遊ぶ場所のおもちゃは舐めても大丈夫な消毒液で消毒する、コロナ対策としてお昼の時間に再度おもちゃの消毒をするなど工夫がされていることを知りました。小名木川児童館はいろんな国の言葉話す子どもたちが来て、英語、中国語など外国語しか話せない人も、日本語と二か国語話せる人もいました。私は、最初特に外国語しか話せない子どもたちに話しかける勇気がなく、1人で遊んでいるのを見守っていただけでした。しかし、少しずつ勇気を出して英語で話してみると、自分の伝えたいことを伝えることと、相手の言いたいことを読み取ることができるようになりました。全部伝えることができるわけでもなく、必死にジェスチャーをしても伝わらないこともよくありましたが、伝えて一緒にゲームをして、笑顔になってくれるのが嬉しかったです。また、英語力を高めたいとも感じました。事務ではイベントで使う物やシールの準備をしました。目立たないところでも子供たちを喜ばせるために先生方が大変な思いをしていると知ることができました。

② イベント

イベントでは「カブトムシの羽化観察会」と「夏祭り」に参加させていただきました。「カブトムシの羽化観察会」では運営の手伝いはせず、ほぼ見学で参加となりましたが、子供たちの素直に喜んでいる姿や、先生の話が夢中になって聞いている姿を見ることができました。



「夏祭り」では1日目マジックハンド、2日目魚釣りを担当させていただきました。前日から先生方は準備に追われながら子供たちにも丁寧な対応をしていました。1日目は慣れないことでもあり、人が多くなってしまった時、焦ってスムーズな対応をすることができませんでした。しかし、子供たちのどうやったら上手に積み上げることができるか考えて頑張っている姿を見ることができました。遊んだ後片付けを手伝ってくれる子もいて嬉しかったです。他にも、子供達が小さい時から英語に触れられるイベントや歌に乗せて親と運動するイベントがありました。自分も実際に見ていて、子供が楽しそうに遊んでいる姿が見れたり、終わった後親同士で、話をしている姿が見られました。子供が友達を作る場でもあり、親同士で相談したり、同じくらいの子供がいるからこそ共感できる話などができる場にもなっているのかなと感じました。

③ 児童館を見て

①でかいた清掃面での意識や、アンケートを用いて保護者の意見をきき、その意見に対してどう思っているかや改善して欲しい点をどう改善するか、また改善できない点はどのように改善できないのかをかいり張り出して、保護者の意見や子どもたちに寄り添っているなど感じました。館長さんから直接どのような児童館にしよう意識しているのか、児童館に人が来るために工夫していることなどを聞くこともでき、行っているイベントにも考えがあることを知れました。ただ子どもたちが遊んでいるのを見守っているだけでなく、違和感を感じたら虐待されているのではないかと子供を守るためにさまざまなことに目を向けていることを知りました。



後輩へのアドバイス

初めてのことはわかりでわからないことがたくさんあることは仕方ないので、積極的に質問して行動しましょう。児童館はコロナのクラスターが発生しないようにことごとく気にかけていました。

一年後、コロナがどうなっているかわかりませんが、小さい子供たちが多く関わる場所なので、体調管理と消毒を自分で意識して行うようにしましょう。

施設実修を終えての感想・反省

私は、このフィールド・スタディーズで9日間、小名木川児童館を訪れて、たくさんのことを学ぶことができました。私の地元には、「児童館」というものがなく、どのような場所なのかさえ分かっていませんでしたが、「児童館」は、子どもや保護者にとってなくてはならない大事な場所であると感じました。そして、児童館の職員の方々の気配りや思いやり、イベントなどの工夫をとでもしてすごいと思いました。特に、「夏祭り」の時は、子どもたちが楽しめるゲームを考えていて、さらに年齢によって難易度を変更するなどの多くの工夫がみられました。乳幼児や小、中学生といった異なる学年の子どもたちみんなが楽しく過ごせる環境をつくることは困難なことです。それを実現させている小名木川児童館は職員の方々の努力があふれていると思いました。また、保護者の方々もこのような素敵な場所なら、安心して子どもを預けることができると思います。小名木川児童館にある「一時保育サービス」は、保護者の方々にとってとても役に立ち、生活の手助けになっていると思いました。子どもたちも他の子どもたちと交流をすることで、コミュニケーション能力の発達にもつながると感じました。また、小名木川児童館には、中国やインド出身の子どもたちもたくさんいるので異文化理解につながると感じます。そして、英語を使用して会話をする中で英語力が身につく、グローバル化が進んでいる現在において適した人材になると思いました。私は、「先生」という立場でたくさん子どもたちと接することができ、本当に多くのことを学ぶことができました。今までになかった視点から考えることができ、自分にとって成長につながると感じました。この貴重な経験で学んだことを私の将来の夢である「なんでも話せる親しみやすい小学校教員」になるために活用していきたいです。このようなたくさん子どもたちと関わる機会は、コロナ化の影響もあり、めったにないので、本当にフィールド・スタディーズに参加することができて良かったです。とても楽しく、有意義な時間でした。ありがとうございました。



後輩へのアドバイス

保育士や学校の先生などの子どもと関わる仕事を将来、考えている人は本当に児童館のフィールド・スタディーズに参加するべきだと思います。子どもの身体能力や行動、接し方について知ることができるなど、児童館の先生の指導の仕方、児童館の施設の仕組みなど本当にたくさん学ぶことができます。子どもが好きな方や少しでも興味のある方は、とても貴重な体験になると思うので、ぜひ参加してみてください！

児童たちの笑顔を守り続ける亀戸第二児童館

データサイエンス学部データサイエンス学科 学籍番号 2222025 名前 田出姫替

施設実修を終えての感想・反省

今回の実修を通して、まずとても良い経験ができたと思います。児童の子達と遊んだり、児童館の様子を知れたりなど、滅多に経験できることではないので参加してよかったなと強く思いました。お盆の期間だったこともあり、そこまで来館する児童の数は多くなかったようですが、一歳くらいの子から高校生までの幅広い年代の方達が来館されていました。全ての年代の方達と関わることができ、流行りのものや好きなものを聞くことができ、色々知ることができました。また、親子で参加できるイベントもお手伝いさせていただきました。その時には親御さんの子育てに関するお話も色々お聞きすることができ、とてもためになりました。児童館ではこのようなイベントをかなりの頻度で行っているそうなので児童の子たちも親御さんからも喜ばれることだと思いました。

しかし、実習が始まった初日は挨拶も自分からできない、来館者がいても動けなかったりと正直全然ダメで焦っていました。でもこのままではダメだと自分を鼓舞し、職員の方々の行動をよく観察したり、自分から挨拶することを心がけました。そのおかげで大分児童館での実修が様になったのではないかなと思います。挨拶をすることは距離を縮める上で一番大切なことだと思います。目を見て明るく行うだけでも相手に与える印象は全然違ってきます。だからこそ実修を行う上で挨拶を一番大事にしていました。

実修が始まる前に書いた目標「子どもたちの目線に立って行動する」「自分から積極的に声をかける」「全力で取り組む」は全て達成することができました。話をするときはかがんだりして目線を合わせ、ゆっくり話すことを心がけました。また、一人の子がいたり、声をかけたそうにしている子がいたら自分から積極的に声をかけたりもできたからです。

児童館での実修は考えていたよりもすることがたくさんありました。例えば縁日のためのちょうちん作りや切り抜きなどのデスク作業、貸出や検温などの受付、児童や保護者の方々との関わりなどあげたらきりがなくらいです。大変だなと思うこともありましたが児童の子たちの笑顔や、作業が終わった時の達成感で全て吹き飛びました。

今回、児童の子たちが笑顔で友達と楽しむ場を守る児童館での活動ができたことに誇りを持っています。そして、自分が携われて本当によかったです。やりがいもあり、達成感もあり、良い経験ができた9日間でした。今回の研修で学んだことをどんな形でも良いので将来に活かして行けたら良いなと思いました。受け入れをしてくださった亀戸第二児童館の方々には感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。



↑作成したちょうちんを飾った写真

後輩へのアドバイス

児童館での活動がどのようなものなのか、初めはわからないことばかりです。わからないことや気になることがあったらしっかり聞くことが大切だと思います。また、児童の子たちとは考え方も知っていることも全く異なります。だからこそ自分の意見を尊重するのではなく、児童の子達の話に耳を傾けて理解することが必要だと思います。そして実修を行う上でやはり一番大切なことは挨拶をすることです。自分から自主的に挨拶を行っていったらとても良い印象を持ってもらえると思います。

亀戸第二児童館でに実習を通して学んだこと

人間科学部社会福祉学科 学籍番号 2233113 名前 竹川花蓮

感想

私は、このフィールドスタディーズで児童館の仕事について一部ではあるが知ることが出来た。私が住んでいる地域には児童館というものがなく、実際に実習に行くまでは具体的にどのようなことをしているのかわからなかった。しかし、実習に行ってみると季節ごとに開催されるイベントの準備や利用者さんへの対応など様々な仕事があることが分かった。児童館で働いている方々が、どのようにしたら子ども達に楽しんでもらえるのかを毎日話し合っている姿を見て、常に子どもたちのことを考えて大切にしているということが9日間でも伝わってきた。また、江東区で暮らしている子ども達が沢山遊びに来ていて、児童館が地域の子どものコミュニティの一つになっているのではないかと感じた。また、乳幼児さんの保護者さんが今どのような状況なのかを職員間で共有して、どのようなサポートが出来るのかを考えていたため、保護者の方々にとっても児童館は子育ての一部として利用しやすい場所になっているとい



う事が分かった。

私たちは、主に利用者さんと遊んだりイベントの準備の手伝いをしたりしていた。イベントの準備では想像以上の仕事があることを学んだ。私が手伝わせていただいたものは少ししかないが、それでも大変な作業だと感じる事が何度かあったため、職員の方々はもっと大変なのだろうと感じた。子どもたちと遊んでいた際も様々な発見があった。まず初めに感じたことは、沢山のことに興味を持つということである。また、物事の吸収が早いということも児童と関わっていてとても強く感じた。一時間遊ぶだけでもトランプやピアノなど様々な物に興味を持って遊んでいた。ピアノに関しては、短い時間の中で



集中して練習することで今まで弾けなかった曲が弾けるようになった子もいた。更に、私は児童館で実習を行っていく中で、子どもひとりひとりの性格を把握し、大切に接することが大切だと感じた。実習中は沢山の子どもと関わることが出来たが、年代問わずそれぞれの性格があって、似ているようで少しずつ異なっているということを感じた。児童館で働く方は、それをしっかり見ていて、接し方を変えていて簡単に出来る事ではないと感じた。

私は、将来児童の福祉に関わる仕事がしたいと考えているので、今回この実習に参加することが出来て良かった。今後の進路選択に実習で学んだことや感じたことを活かしていきたい。

後輩へのアドバイス

活動内容

- ・イベント準備の手伝い、利用者さんと関わる

気を付けていたこと

- ・様々な作業を行うが、作業だけではなく、利用者さん(子ども)と関わることを大切にする
- ・声かけ、挨拶をしっかりと(利用者さんが来た時は挨拶と検温)

活動の魅力

- ・子どもと関わることができ、子どもに関わる仕事がしたい人にとって、とても良い経験になる
- ・子どもの笑顔で、自分も笑顔になることが出来て、充実した時間を過ごすことが出来る

亀戸第三児童館での実習を通して感じたこと、考えたこと

データサイエンス学部データサイエンス学科 学籍番号 2222018 名前 杉浦壮真

施設実修を終えての感想・反省

この実習を通して児童館の役割として1番大切なことは子ども達にとっても保護者にとっても安心して遊べる環境を提供する事なのではないかと感じた。そして私が実習でお世話になった亀戸第三児童館ではそれらの環境を提供するために施設内の消毒や来館者の利用履歴の管理、職員の皆さんの見回りなどが徹底されており、毎日多くの来館者が安心して利用することが出来ていた。その他にも保護者同士の情報共有の場や子ども同士の出会いの場や学校にあまり居場所がない子の居場所となっていることなど多くの役割を担う施設として利用されていることがわかった。また、乳幼児の保護者にとっては児童館の先生が前回施設を利用した時からの自分の子どもの成長や変化に気づいてくれることや親身になって相談に乗ってくれることはとても心強くありがたいことなのではないかと感じた。

私は今ある児童館をより良くしていくために二つのことを提案したい。一つ目は中高生の来館がもっと増えるような工夫やイベントを開催することだ。児童館がたくさん悩みを抱えがちな中高生の子ども達にとっての一つの居場所になればより良い施設になっていくと思うためである。二つ目は大学生ボランティアを増やすことだ。私自身実習を通して良い経験が出来たことや利用者が楽しそうに一緒に遊んでくれたことなどから大学生ボランティアがいることにより児童館、利用者にとっても良い影響を与えられると考える。

私自身、この実習を通して人として大きく成長できたような気がした。それは色々な子どもと関わり、様々な価値観に触れることによって学べた事が多くあるからである。どうすれば子ども達に楽しんでもらえるかなどを考えながらもほとんど自然体で同じ目線になって接することによって子ども達と一緒に楽しい時間を共有できたので非常に充実した実習となった。



後輩へのアドバイス

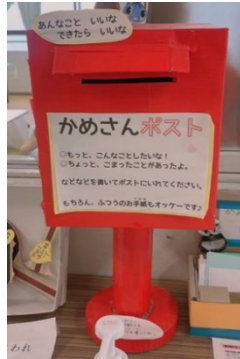
この実習を通して乳幼児から高校生までの幅広い年代の様々な特徴のある子どもたちと関わり、ひとりひとりと向き合うことにより毎日新しい発見があったり、刺激をもらえたりととても良い経験が出来ます。活動のほとんどが児童館に来た子たちと一緒に遊ぶことや、お話をすることです。空いた時間に児童館のイベントの準備のお手伝いや装飾のお手伝いなどをしていました。長期間のプログラムなので特によく児童館に来てくれる子ども達とは目を追うごとに仲良くなれることや毎日色々な子ども達と関われるため飽きがないことがこの実習の最大の魅力だと思います。実習中は児童館に受け入れてくださっているという感謝の気持ちを忘れないということ子ども達に寄り添い同じ目線になって遊んで自分自身も楽しむということを念頭において活動することによって児童館の職員の方や利用者、自分にとっても楽しく価値のある実習になると思います。

亀戸第三児童館での実習まとめ 教育学部幼児教育学科 2238068 名 前 島田倅杏

施設実修を終えての感想・反省

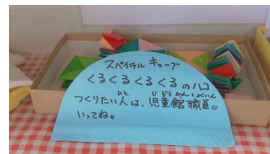
i 児童館が子どもに与える影響

先生方から… 児童館は子どもが楽しく安全に遊べる場を提供するところ。子どもたちが普段ははなせない話（悩み事など）ができる場所。一人でできてぼーっとしている子には声をかけてあげてね。



←「かめさんポスト」

自由に意見を言えて子どもに寄り添った施設を築きやすい



←「実際に触れる折り紙の作品」

子供たちが興味を持ちやすい工夫がされていました。

児童館や児童館の先生は子どもの支えになっている。

先生は子どもたちに愛情をもって明るく接すること、子どもにとって最善とされることを常に考えて接することが大切だと考えました。

ii 児童館が保護者に与える影響



←「おすすめの病院を教えてください♪」

緑の付箋→土日祝日も診察してくれるので離乳食の量を増やしやすいです。

オレンジの付箋→先生の言い方がはっきりしているなのでそういうのを求めている方にはピッタリです！

予約制ではないのですぐに受診できます。

保護者の方々は育児に関する相談をすることや、他の保護者の方と育児に関する情報交換をすること、また、雨などで外で遊べない日などに子供を遊ばせることを目的として児童館へ来ている方が多く見られました。児童館は保護者と保護者を結ぶ懸け橋であり、児童館の先生は来館した保護者方の相談に乗り子ども家庭支援センターへの窓口になること、ともに意見交換をすることで子供についての考えをともに広げ、深めていくことが大切だと考えました。

iii 児童館が地域に与える影響

保護者向けの乳幼児プログラムも地域連携の一つだと考えました。児童館の先生は子育てがしやすくなるような施設やイベント情報を発信して地域の子育て支援をすることが大切だと考えました。

iv 子どもと保護者が直面している問題

コロナの影響により保護者同士の情報交換の場が減っている。子育てにスマートフォンを活用する親の増加。核家族化により、子育てをサポートしてくれる人が身近にいない。コロナで溜まったストレスが子供に向いてしまう事件がある。テーブルゲームをする子が多い。軽い気持ちで暴言をいう子の増加。→注意しない親がいる。

後輩へのアドバイス

子どもと遊ぶことに夢中になりすぎて周りへの意識が欠けないように注意してください。掴み合いのけんかやおもちゃが壊れたなどのトラブルがあった場合はすぐに先生方へ報告すること。分からないことや興味のあることはどんどん先生に聞くと良いです。いろいろ教えて頂けます。

東砂児童館での実習で子どもと触れ合ってみて

経営学部経営学科 2220140 池田宙樹

施設実修を終えての感想・反省

今回、東砂児童館で実習させてもらい、普段関わることの無い子どもたち、特に小学生と話したり遊んだりする中で特に難しいと感じたのは人の話を聞かずに自分の意見を前面に出したり、何度言っても指示に従ってくれないという場合の対処だ。これは大人とやり取りする時には起こらないことなので最初のうちは驚かされていた。しかし、回数を重ねていくうちに自分にとって都合が悪いことが起きた時や楽くなってテンションが高いときになりやすいと感じたので、しっかりと話を聞いてあげて少し落ち着かせてから正しいことを教えてあげることが重要なのだと考えた。また、これらは感情をしっかりと表してくれているとも言えて、何を考えていたのか分かり、その子がどのような性格なのか知ることができて面白くもあった。

イベントにはいくつか関わらせてもらったが、一番注力したのは夏祭り（縁日）だった。年に一度のイベントで規模も大きく、他のイベントよりも圧倒的に準備時間が長く、装飾の提灯作りは本番の二週間以上前から始めていた。当日は他のイベントを含め、大勢の人をスムーズに流したり、想定していなかったことに対応しながら運営することには少し苦戦したが、子どもたちの楽しそうな顔を見たり、お礼を言ってもらったりして達成感は非常に大きかった。幼児の保護者の方に提灯の出来が良かったと言われたのもしっかりと準備してきて良かったと感じた。

ほかに学んだことの中で今後社会に出ていくうえで最も重要だと感じたのは周りの視線の意識だ。実習の始めの頃に次に何をしたいのか分からずに座っていたことがあったのだが、周りの来館者の目線で見ると実習生だとしても職員の一人が何もせずに座って休憩しているように映ってしまい、今回の場合だと東砂児童館と武蔵野大学の看板を背負っているという自覚が足りていないと感じた。自分はもう子どもではなく、一人の社会人であるのだと痛感させられた。

せっかく貴重な体験をさせてもらったのでこれで終わりではなく、次に活かせるようにもう一度学んだことを整理して身に着けたいと思う。



左が東砂児童館を外から撮った写真で、右が集会室で遊ぶおもちゃの一部の写真。ほかにも幼児向けの部屋があったり、漫画を読んだり、卓球、バンパー（小学四年生以上）、ダーツ（十七時から十八時、中学生以上）などで遊ぶことができる。

後輩へのアドバイス

- ・子どもの相手はうまくいかないこともよくある
- ・問題が発生したり、分からないことがあったらすぐに職員の方に聞きに行く
- ・仕事はもらいに行く
- ・気持ちよく仕事するため、挨拶は大切に
- ・子どもがおもちゃをばらまいてしまったなどのハプニングにはすぐに対応
- ・気付いたことがあれば遠慮せずに職員の方に言う

亀戸児童館の実修を通して

データサイエンス学部データサイエンス学科 学籍番号 2222059 名前 吉井茜音

施設実修を終えての感想・反省

児童館には多くのアクティビティがあり、沢山のことを経験できます。私は小学生の頃、児童館には行っていなかったのですが、その時に、児童館の存在を知っていれば、新しい発見が出来たのかなと感じます。学校の中で居場所を失ってしまった子供の、心の拠り所となるような場所でもありと感じられました。今回の実修を通して、職員、子供たち、子供たちの保護者様から多くの学びがありました。あるイベントの日に、保護者の方と話していると、「コロナ禍で外に遊びに行く機会がなかったけれど、児童館からのお便りを見て来ました。子供も楽しんでいるので近くに児童館があつて良かったです。」とおっしゃっていて、児童館に関する意見を直接聞くことで、児童館がある大切さを感じられました。

遠足では、危険がないように子供たちから目を離さず、誘導することが必要でした。子供たちを外に連れ出して集団行動をすることは非常に大変であり、職員さんの動きを見て、次に自分がすべきことを考えて行動することが大切でした。一人で呆然と立っているだけでは何も始まらないので、分からないときは先生に聞くなどとして、何か行動をとるべきだなと感じました。大学生である私たちの当たり前と、子供たちの当たり前には違いがあります。しっかりと双方を理解することが重要だと思います。

私が一番苦労したことは、子供たちの喧嘩でした。対応の仕方がわからず、職員さんに助けを求めてしまいました。その日の日誌に、喧嘩の対応の仕方を質問したところ、最初は子供たちの力でなんとか解決してほしいため、見守ることが大事だとおっしゃっていました。どうしても解決できない場合は、職員さんが間に入るようにしているそうです。その後、幾度か子供たちの喧嘩がありました。職員さんの言っていた通りに行動し、見守っていると、子供たちの思っていることが次々と言葉にして現れてきました。子供たちは、相手の考えていることが少しずつわかってきて入れ違いがあつたのだとわかると喧嘩は落ち着いていきました。子供たちで解決できない場合は、喧嘩が起こった原因を整理するように促してみました。喧嘩をしないことが一番平和ですが、お互いにぶつかり合うことで、相手の考えを知ることができ、成長できるメリットがあるのだなと思いました。

装飾では、その季節に合ったデザインをするように他の実修生たちとアイデアを出し合い、協力しながら完成させました。職員さんは、自分達で考えて創作するようにおっしゃってくださいました。一から全て仕事を任せていただきました。自分達で行動することによって、それぞれの実修生が積極的に意見を出し合い、想像力豊かで秋らしい装飾をすることができたと思います。非常に達成感を感じています。



後輩へのアドバイス

将来の就職候補として子供たちと接する仕事を考えている人、子供との接し方を学びたい人、子供が好きな人、に向いていると思います。子供たちと接することで、子供とのコミュニケーションが取れますし、館内の装飾もできるので、非常に楽しいプログラムだと感じました。初めての場所での経験は、楽しい反面不安も沢山あります。私は児童館で数回失敗しました。職員さんから指摘を受けましたが、フォローもしていただきました。失敗したことで、慎重な行動を心がけるようになり、周りへの配慮も自ずと生まれてきます。ぜひ自信を持って挑戦してみてください。

亀戸児童館での実習を終えて

人間科学部人間科学科 2231217 川松美咲



施設実習を終えての感想と課題

私は亀戸児童館での実習を通して感じたことが二点ある。

第一に、子ども一人一人異なる背景があつて性格も異なるが、平等に接することが大切だということだ。亀戸児童館に来る子どもの中には、障害を抱えた子どもや過去に辛い経験をした子どもがいた。また、性格に関しては自己主張が強い子どもや「嫌だ」と伝えることが苦手な子どもなど、様々だった。私は、実習の前は子ども一人一人に対してその子どもに合ったアプローチをしていくのだろうと考えていた。しかし実際は、子ども全員に対して平等に接し、注意する際には機嫌が悪くなりやすい子どもだからといって伝え方を柔らかくするのではなく、他の子ども同様に厳しく伝えていた。そこから私は、子ども一人一人に対して平等に接することが最も重要なことなのだと感じた。どの子どもに対しても平等に接することで、子ども同士の関係に変な溝が出来ることなく過ごすことが出来るのだろう。

第二に、児童館で行われるイベントや遊びは、単に子どもが楽しむためだけのものではなく、子どもの学びの場でもあるということだ。亀戸児童館で行われたものを具体的に挙げると、遠足は集団行動を身につけたり交通ルールを覚えたりする場となっていた。また、タスクはルールを守ることの意義や、楽しむこととふざけることの違いを学ぶ場となっていた。子どもが楽しむだけでは公園に行つて遊んでいることと意味は変わらないだろう。児童館という場所で行われることの意味を考えられる良い機会となった。

更に私は、亀戸児童館での実習を通して自分の課題を二点見つけることが出来た。

第一に、自分で考えて行動するということだ。特にこれは実習前半で感じたことだったが、職員の方の「次の時間は学童をお願いします。」というような声かけを頼りにしてしまっていた。この点に気が付いた後の実習後半は、自分で事前に確認することを心掛けることが出来ていたのではないかと思う。初めての場所で慣れていないといえども、最低限でも自分のことは自分で管理したいものだ。

第二に、人と関わることへの恐怖と緊張を減らすということだ。人の中でも、特に中学生以上の人と関わった時により感じた。この点に対して職員の方から、相手の話を聞くだけで十分コミュニケーションとしては成り立つというアドバイスを頂き、実践した。私は将来、心理という面から人を支える仕事をしたいと考えているため、この課題は達成しなければならないものだ。大学生生活内で達成できるよう、頂いたアドバイスを今後も実践していきたい。

後輩へのアドバイス

(児童館)

児童館では、主に小学校高学年生から中高生と関わるが多かった。ゲームをしている子どもが多く、話しかけることが難しいと思ったが、「何のゲームをしているの?」と聞いて見ただけで、子どもの方から「これは〇〇で強い」など、話をしてくれた。自分が話をしなければならぬ、と意識しすぎる必要はなかった。

また、タスクやドッジボールは参加することもあつて体力を使うが多かった。一緒に遊ぶ子どもの年齢に合わせた力加減をしつつも楽しんで場を盛り上げることを心掛けていた。特に高学年生になると暴言が目立つので、注意する必要もあつた。

(きっずクラブ)

きっずクラブでは小学校低学年生を対象とし、児童館内にある玩具で遊んでいた。「見ていて」や「隣にいて」と言つて腕を掴まれた状態にされることが多く、特定の子どもの関わりが増えてしまいがちだった。様々な子どもと関わるということを心掛けることが大切だと感じた。他の子どもが加わつた時や、「他のところも見てくるね」と伝えて離れるタイミングを見つけることが必要だった。

また、子ども同士のちょっとした喧嘩が目立った。喧嘩には他者を思いやる気持ちや葛藤解決能力といった子どもに身につけて欲しいことが含まれているため、基本は見守るということを選び、心掛けていた。しかし、子どもが自分の気持ちを相手に上手く伝えられないこともあるため、手助けをすることも必要だった。

写真) “亀戸児童館”. 社会福祉法人 雲柱社. <https://fukushi.unchusha.com/kameido/>, (参照 2022-09-16)

千田児童館から見る子育て支援

データサイエンス学部データサイエンス学科 2222023 高多陽屈

施設実修を終えての感想・反省

今回の千田児童館での実習では、児童館が地域の方々にとって他者との交流を深められる場だと学ぶことができました。

児童館を訪れる小中学生の多くが友人と待ち合わせをしており、一人で来館した児童でもその場に居合わせた子と遊んだりするなど、誰かと話したい、遊びたいと思ったときに訪れる場所だと思いました。他者との交流の場だけでなく、漫画を読んだりゲームをしたり、各々が好きなことに向き合える空間を併せ持っており「児童の居場所作り」を体現した施設だと感じました。児童から声をかけられることも多く、身近な年長者に気軽に声をかけることのできる環境が整っていることが強く印象に残りました。反対に、自ら児童に声をかける積極性の無さを痛感しました。

乳幼児向けに実施されているプログラムや日々の利用者の方を見学していくなかで、実習の目標としていた「子育てに必要な支援を知る」という項目の達成に近づくことができました。実習に参加するまでは、乳幼児プログラムの読み聞かせやなないろプログラムの英語レッスンなど、乳幼児を対象とした支援ばかりを想像していました。しかし、大判ハンカチのアレンジ講座やママヨガなど、乳幼児の保護者を対象としたイベントもありました。育児中の方が同じ境遇の人たちと交流できる場となっており、子育て支援と一口に言っても、子どもの教育に関わるだけでなく、子育てに真摯に取り組んでいる保護者を支援する意味もあるとわかりました。

今回の実習では、普段接する機会がない小中学生と触れ合うという貴重な体験をすることができました。自分自身が小学生だった頃に学年や学校関係なく人と接する場所がなかったのも、こども縁日などの特別なイベントだけでなく、普段の遊びが思い出としてこどもたちの中に残ったらいいなと思いました。

9月の子育て応援プログラム
ママヨガ 日々の子育てで疲れた体を、
ヨガでほぐしてリフレッシュ!
講師：齋藤麻美先生
9月12日(月) ① 10:30 ~ 11:10
② 11:20 ~ 12:00
(2部入れ替え制)
定員：各回10名 ※定員に達し次第×切
(お子さま連れでの参加可能 子どもを含め各回20名程度)
対象：子育て中のママ
申込み：9月5日(月)10:00~
持ち物：水分補給の飲み物
※動きやすい服装でお越し下さい。
※お子さまのお気に入り玩具等お持ちいただいても結構です。



↑ 子育て応援プログラムの概要(引用元：
<https://www.mommy-senda.com/news/2477/>)

↑ 児童と作成した工作

後輩へのアドバイス

コミュニケーションを自ら積極的に取ることが重要だと思いました。実習の前半は夏休み期間ということもあり一日を通して常に小学生がいる状態だったので、たくさんの児童と関わる機会が多く一人一人に合わせて話しかける必要があるなと感じました。

こども同士での喧嘩があったときに双方の意見を聞くことが大事だと感じました。お互いの意見が食い違ってぶつかってしまっているの、その場の状況だけで判断するのではなくきちんと意見を聞くことでその後の関係に支障がないようにすることが大切だと感じました。

千田児童館での実習を通して

文学部日本文学文化学科 2213209 栗山 佳大

【施設実修を終えての感想・反省】

私は江東区 FS において千田児童館の一職員として 15 日間の長期プログラムに参加した。児童館での活動では、個人的に将来性のある有意義な、そして貴重な経験を積ませていただくことができた。私が児童館での長期プログラムを志望した理由としては、大学で教職課程を履修しており、将来教師として幅広い年齢の子供たちと交流する上で、適切な接し方を実践的に経験しておきたかったからである。実際に実習の大部分を子供たちと交流する時間に当ていただき、職員の方々にも相談させていただきながら、自分なりに児童との関わり方を時間をかけて模索することができた。具体的には何かを伝える時は難しい言葉を用いずに分かりやすい言葉や表現を用いることや、同じ目線で物事を捉えるといったことを職員の方々との接し方から学び、実践することができた。実習に臨む際に目標として掲げていた「児童との適切な関わり方を模索する」という教員を志すうえで必要となる一つの準備を早い段階で経験することができたという点で、今回の千田児童館における経験は今後、教職過程の取得を目指すうえで大きなアドバンテージになると強く感じた。また、学校と児童館には児童を一定時間預かるという点で共通する部分があった。児童館内では事故を未然に防ぐために職員の方々が生徒作業をこなしつつも自由に遊ぶ児童たちの状況を把握し、定期的に声かけを行う様子を目にした。他にも災害や緊急事態を想定した備蓄がなされており、児童館は単に遊び場を提供する施設ではなく、人を預かるという点で相応の責任を負っているということも実際に足を運んで理解することができた。児童館での実習は教育現場に通ずる点も数多くあったため、教職を目指す過程で大いに参考にさせていただきたいと思う。

また、今回の実習では子育ての在り方について考える機会も多々あった。千田児童館では放課後に訪れる児童の遊び場としてのみならず、乳幼児を対象に様々なプログラムが企画されていた。

乳幼児プログラムは児童館の集会室で行われており、広々とした空間で周囲を気にせず伸び伸びと身体を動かす乳幼児とお母さんの姿を見ることができた。他にも職員の方やママ友と育児に関する意見交換の場にもなっていたことがとても印象的であった。育児には大きな負担がかかるため、主に一人で家事と育児を担わなければならない母親への支援は必要不可欠となる。同じ立場にあるママ友や育児に関する知識を有した児童館の職員の方々との交流は、主に育児を担当するお母さん方の大きな支えになっているのではないかと強く感じた。それと同時に児童館が担う役割の幅広さを改めて実感することができた。また、今回の実習が夏休みの間に行われたということもあり、実習の中で受付を担当した際に子連れのお父さんが児童館を訪れていたことも印象強く覚えている。中には乳幼児プログラムに両親ともに参加なさっていた方もいらした。父親が働き、家庭を金銭面で支える一方で育児や家事は母親が担うというように役割分担をするのではなく、協力して育児を行うことが育児の本来あるべき姿なのではないかと強く感じた。私は将来、教員や父親として子どもと関わる機会を得る可能性は大いにありと考える。そうした際に、今回の千田児童館での実習で得た経験を生かし、考えを実践できるように、今後とも育児や教育について継続的に学習したいと思う。



9月号						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

9月の子育て応援プログラム
ママヨガ 日々の子育てで疲れた体を、ヨガで癒してリフレッシュ！
9月12日(月) ① 10:30～11:10 (2部入れ替え制) ② 11:20～12:00
定員：各回10名 ※定員に達し次第終了

後輩へのアドバイス

江東区 FS では児童館職員として幅広い年代の子どもたちと直接交流する機会を得ることができ、教職を目指している人にとっては実践的な経験を得ることができる貴重な機会になると思う。育児や教育に興味がある人にとって深い学びを得られるのではないかと。

施設実修を終えての感想・反省

実習に訪れた辰巳児童館では、数え切れない程多くのことを学んだ。見知らぬ人、特に子どもとの付き合い方は難しく、当初は何が正解かがわからなかった。しかし、職員の方がとても優しく、親身になって話を聞いてくださり、的確なアドバイスまでもしてくださったおかげで少しずつだが成長できた。児童館の利用者にとって何が最善なのかを考えて行動すると、お礼を言っていたり笑ってくれたりする。それが何よりも嬉しく、迷うことがあっても頑張ろうと思えた。

児童館を利用する子どもは様々だ。人懐っこい子、人見知りをする子、私のような見慣れない人間に話しかけたいけれど勇気が出ない子などだ。皆に同じ対応をしても良いコミュニケーションは取れない。それぞれにあった対応をする必要があるという話を聞き、挑戦してみた。何度も回数を重ねるごとに、どのような対応をするべきかが理解できるようになった。人懐っこい子には、保護者が見ている不快に思わない程度の軽いスキンシップ、例えば手をつないだり軽く背中に触れるなどして距離を縮めていく。人見知りをする子にはあまり自分から話しかけず、遊んでいるところを笑顔で見守っていれば、相手から話しかけてくれることが多い。そして、話しかけたいけれど勇気がない、恥ずかしがり屋な子には急に近づくのではなく、徐々に距離を詰める。そうすると遊びに誘ってくれたりすることがあった。

子どもの数だけ遊びたい玩具、やりたいことは異なる。それらのニーズをくみ取り、希望を叶えることでまた利用したいと思ってもらえるだろう。

辰巳児童館は、紙でのお知らせを配るだけでなく、TwitterやホームページなどのSNSを駆使して情報提供を行っている。児童館という施設も時代の移り変わりに従って、本質そのものは変化していないが在りようは少しずつ姿を変えているのかもしれない。また、学童保育や保健所と連携しており地域と密接な結びつきを持っているのだとわかった。

実際に訪れ、実習を経験させていただく中で、インターネットや紙の資料を閲覧するだけでは知りえない、児童館の実情に触れることができた。児童館がどのようにして成り立っているのか、今回の実習が無ければ知ることは無かっただろう。また、多くの人と関わることができ、私自身大きく成長することができた。辰巳児童館での全ての出会いはこれから生きていくうえできっと重要なものになるだろう。どれも忘れることのできない貴重な思い出だ。

沢山の良い人と出会うことができ、人間としても大きく成長することができたFSを経験することができ、また、そのFSを辰巳児童館で行うことができ本当に良かった。

<https://www.city.koto.lg.jp/281054/kodomo/hokago/jidokan/images/035.jpg>



後輩へのアドバイス

- ・適度な緊張感が必要だが、子どもたちは敏感なため過度に緊張しない
- ・自分にできることを考える
- ・周りをよく見て行動する
- ・子どもたちと話す時は目線を合わせる
- ・予想外のことが起こっても落ち着いて行動する
- ・時間厳守
- ・子どもたちは予想外の行動をすることが多いため、あらゆる危険を想定してそれを除く必要がある
- ・常に客観的な立場で動く
- ・わからないことは職員の方に訊ねる、勝手に判断して動かない
- ・挨拶はしっかりする
- ・子どもたちは皆可愛く、保護者や職員の方も優しいので安心して実習を行う！

辰巳児童館での実習を振り返って

人間科学部人間科学科 2231074 高田春菜

施設実修を終えての感想・反省

私は、今回の実習の目標として、児童館とはどのような場所であるかを説明できるようにすることを掲げた。本レポートでは、自分の見解も合わせて児童館について説明したい。

まず、利用者の方がおっしゃっていたことであるが、児童館は、無料で子供と過ごせる貴重な遊び場である。職員が安全を確認しているため、色水遊びや工作体験など、家や公園とは違った遊びを体験できる。親子連れだけでなく、一人で児童館を利用する子どももいる。そのような子どもたちを見ていると、それぞれがしたいことを行っていることが分かる。児童館は地域の子どもたちとその保護者に居場所を与えているのだ。

児童館が利用者にとって安心安全かつ自由な居場所であるのは、そこで働く職員の皆さんのおかげである。一步引いたところから子どもたちを見守り、そのニーズに応えることを第一としている。利用者が何をしてもしなくても良いのが児童館ではあるが、特定の利用者の希望が他の利用者の安全と自由を制限し得る場合は両者の自由をバランス良く確保する方法を考えており、職員の皆さんは日々模索している。また、研修を行い、知識の向上とプログラムの考案を絶えず行っている。

児童館が地域の居場所であるためには他の機関との連携が要である。学校や学童保育、保健師さんや歯科衛生士の方と協力することで、多くの子どもたちが児童館と関わったり、子育てに関する知識を保護者の方に広めたりする機会を設けている。

また、利用者の役に立ちたいという思いが職員のウオントと化さないよう気を付ける必要があることを講評の中でアドバイスしていただいた。

今回、私は辰巳児童館という一つの施設について、職員と利用者の視点から見解を得たが、児童館についての一般的な解釈を得るまでに至っていないと実感している。しかし、子どもたちと関わることでこの機会はとても貴重な体験であった。誰かの居場所になったりニーズに応えたりするために物事を考える力は今後も活かせると思う。施設の皆さんや先生方、本当にお世話になりました。

後輩へのアドバイス

施設の方は実習生を受け入れてくれます。失礼の無いように気を遣うことはもちろん必要ですが、良いと思ったことは迷惑を恐れずに積極的にやるべきだと思います。ただし、報告・連絡・相談を忘れずに！



<https://www.city.koto.lg.jp/281054/kodomo/hokago/jidokan/guide.html>

東陽児童館での実修を受けて

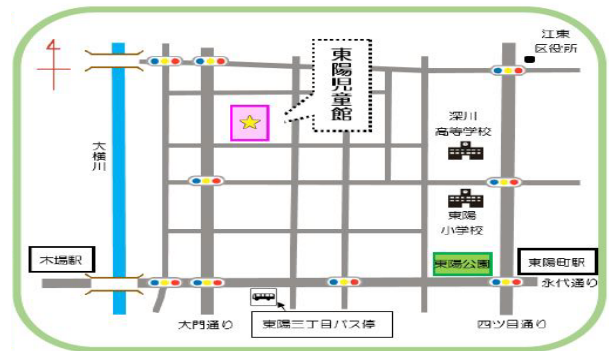
人間科学部・社会福祉学科 2233039 瀬崎 奏音

<施設実修を終えての感想・反省>

まず初めに、現場での実修日数を聞いたときは10日間もあるということに驚いた。しかし、実際に児童館の一員として過ごしていくなかで1日の体感時間が早く感じ、10日間しかないのだと思うようになった。初めての経験で最初は不安な気持ちも多かったが、児童館の雰囲気に慣れていくと同時に実修内容を楽しいと思えるようになっていった。私は年の離れた妹や弟がいるわけではなく、小さな子どもと深く関わる機会がなかなかなかったため、最初のうちは子どもたちとの上手な接し方や適切な距離感を掴むことが難しかった。しかし、元々どちらかという子どもは好きな方だったということもあり、先生方が子どもと関わる姿を観察したり見様見真似で動いたりして学んでいくうちに自然と自分から声をかけられるようになり、子どもたちと関わることに對する不安も次第に無くなっていった。

私は中学時代の職場体験で1日だけ保育園に行かせてもらったことがあるのだが、受け持つ子供の人数やスケジュールが細かく定められている保育園とは違い児童館は日によって来館人数も年齢層も異なり、具体的に何をするのか決められているわけではないため主に自分で考えて行動することが求められるという点で大変だと感じた。自分の心に正直で自由に動き回る子どもたちと一緒に遊ぶことで、感情を表現することの大切さを改めて学ぶとともに物事に臨機応変に対応する能力を身に付けることができたと思う。また、先生としてと学生としての二つの側面から身近な存在として子どもたちと楽しく関わることでよかった。

今回の実習全体を通して、子どもたちは柔軟な発想力や失敗を恐れないチャレンジ精神を持っていると感じた。私は何かアクションを起こす際にいつも慎重になってしまうので、そこはぜひ見習いたいと思った。10日間という長いようであるという間の日々を通して幅広い年齢かつ多くの人と関わることで、とても良い経験になったと考える。



<後輩へのアドバイス>

どのような活動をしたのか

- ・乳幼児→車（電車遊び）、おままごと、様々なおもちゃ遊び
- ・小学生→ボードゲーム、塗り絵、あやとり、ピアノ遊び
- ・中学生→ボードゲーム、ボール遊び、卓球
(その他行事に向けた準備の手伝いやおもちゃの消毒など)

どのようなことを意識すべきか

- ・小学生未満は親子で来館される場合が多いため、保護者の方々とも積極的に関わること。
- ・子どもたちに楽しく遊んでもらうためにまず自分が楽しもうとすること。
- ・子どもたちに安心感を与えられるように、笑顔で接することを意識する。
- ・不明点等があれば一人で悩まずに思い切って質問や相談をしてみる。

東陽児童館での実習を通して学んだこと

文学部日本文学文化学科 2213038 隈本 咲月

施設実修を終えての感想・反省

東陽児童館での10日間の実習を通して、沢山の学びを得ることが出来ました。

最初は子供たちとの接し方が分からず、自分から子供たちに声を掛けられなくて職員の方と子供たちが遊んでいるのを見ているだけになってしまいました。しかし、日数が重なるにつれて接し方が分かってきて自分から話しかけて一緒に遊ぶことが出来ました。また、子供たちと接しているときに保護者の方とも話すことが出来たので大人の方と話す良い機会だったと感じました。

実修の時に幼稚園生の女の子と乳幼児の女の子が特にについてくれて沢山遊ぶことが出来たので嬉しかったです。乳幼児の子は最初どう接すればよいのかが分からなくて声をかけることしかできませんでしたが、実修を重ねるうちに接し方を学び、最終日にはその子が自分から私の所へ来て売れてとても嬉しかったです。

幼稚園生の女の子は自分のしたいことが分かっていたのでそれを伝えてくれたので、最初から仲よく遊ぶことが出来たと思います。塗り絵や折り紙、ゲームなどをその子から教わりながらすることで、距離を縮めることが出来ました。

最終日が近くなると、塗り絵を塗ってその後ろにお手紙を書いてくれたり、折り紙を折ってそこにメッセージを書いてくれたりと感謝の気持ちを沢山伝えてくれてとても嬉しかったです。

また、なついてくれた子供たちの保護者の方ともその子を通じて沢山話すことが出来たので、保護者の方との接し方を学ぶことが出来ました。

私はこの実習で「自主的に行動する・沢山の子供たちと関わる・周りに気を配る」という3つの目標を立てました。「自主的に行動する」・「沢山の子供たちと関わる」という2つの目標は達成できましたが、「周りに気を配る」という目標は達成できたとは言えない結果でした。

達成することが出来た「自主的に行動する」・「沢山の子供たちと関わる」という2つの目標を通して、自主性を得ることが出来ました。達成することが出来なかった「周りに気を配る」という目標は、意識しても難しかったです。子供だけでなく、その子の保護者の方や周りの子供たち、職員の方などにも気を配らなければいけないのでとても難しいと感じました。日ごろから意識して仕事をされている職員の方はすごいなと思いました。実習は終わってしまいましたが、私も職員の方のように日ごろから視野を広く持ち、周りに気を配ることのできる人になりたいです。

この10日間の実習で子供たちや保護者の方とのかかわり方、児童館事業について学ぶことが出来ました。また、人と関わることの大切さも学ぶことが出来、充実した10日間でした。

写真は東陽児童館の外見です。



後輩へのアドバイス

この実習では自主的に行動することがとても大事だと思います。そのため、職員の方に言われる前に自分から子供たちや保護者の方々と接するようにするといいと思います。また、「周りに気を配る」ということが出来ると思います。難しいですが、意識することは出来るので心がけて行動することが大切です。この実習の魅力は、乳幼児から高校生までの幅広い年齢の子供たちと関われることだと思います。このように幅広い年齢の子供たちと接する経験というのは児童館でないと体験することが出来ないなので、多くの学びを得られると思います。頑張ってください！

施設実修を終えての感想・反省

今回の、ティアラこうとうでの実習を通し、芸術とは何だろうかと考えるきっかけになり、ティアラこうとうのような文化施設が地域においてどのような役割を持っているのか考えることができた。

実習期間の中で、「ティアラあーとふる DAYS」「アウトリーチコンサート」の二つの大きなイベントに携わらせていただいた。「あーとふる DAYS」は館内祭りで、江東区の人々に芸術に触れてもらいながら、芸術で繋がってもらおうというイベントである。このイベントでは、館前でのチラシ配りや、チケットもぎりなどの業務を担当させていただいた。業務を行いながらも、空いた時間にコンサートや展示等を鑑賞させていただけた。あーとふる DAYS を通して感じたことは、ティアラこうとうは「小さな子供から高齢の方までが、芸術によって一つになれる空間を提供する」「新しい芸術に出会う場を提供する」という存在意義を持っているのだということ。イベントを見学する中で、観客が参加して一緒に芸術を楽しむような場面が多くみられた。観客の世代は様々であったが、年齢関係なく芸術を通して会場が一つになっている様子にとっても感動した。この経験というもの普段あまり芸術に関心がないような人も芸術に興味を持つ良いきっかけになると感じた。また、大ホールではオーケストラやバレエ、寄席等が行われていた。これらの舞台芸術というものは、普段中々触れないものであるため、このような特殊な芸術を体験することによって、区民も刺激を受けたり新たな趣味を見つけたりもできるなど感じた。これらの経験を提供するのがティアラこうとうが江東区で持つ大きな役割なのだろう。

アウトリーチコンサートは、近くの小学校に出向いてオーケストラやバレエのパフォーマンスを小学生に見てもらおうというものである。今回は東砂小学校でのアウトリーチコンサートであった。ティアラこうとうを利用したことはあるかという質問にほとんどの小学生が手を挙げており、とても驚いた。今回のアウトリーチコンサートはオーケストラの公演で、オーケストラの基本的な説明を行っていたのだが、その内容に声を漏らしながら驚いたりなど、大きなリアクションをとりながら興味津々に話を聞く児童の姿に小学生らしさを感じるとともに、この好奇心旺盛な時期にたくさんの芸術に触れておくことが地域に芸術を広めるためにとっても大切なことなのだと気付いた。公演中も体でリズムをとったり、手をたたくなど様々な反応が見られた。

今回の実習では、芸術を地域の人々に体験してもらったための様々なイベントを通して、このような文化施設の大切さ、どうして大切なのかを考え学ぶ良い機会となった。また、江東区という街と芸術の繋がりを自分の目で確認したり、体で体感したりなど、本当に刺激的な五日間となった。



後輩へのアドバイス

業務内容は、会場の設営や、チラシをまもめたりチケットを集めたりなどが多いです。イベントの際は、大ホールや小ホールでの公演を見させて頂けます。普段あまり見ることの少ない舞台芸術などを見ることができてとても面白いです。文化センターなので、多くの来場者の方が訪れます。笑顔ではきはきと対応しましょう。また、館内を移動する際も来場者の目に触れているので気を抜かないようにしましょう。

ティアラこうとうで学んだこと

看護学部看護学科 2263106 佐々木ゆり子

施設実修を終えての感想・反省

どのようなことをやるのか最初はとても不安だったのですが、体力的に大変になるほど次々にやるべき仕事を提示していただいたので、とてもありがたい実習でした。体験させていただいた中で特に大変だったことは、プログラムにチラシを挟み込むといった作業なのですが、チラシの山がいくらやっても減らないといったところに、つらさを感じてしまいました。普段何気なくおいてあるようなチラシでも私たちが体験したような、大変な苦勞が重なっているのかと思うと、単なるチラシでも少し見る目が変わってしまうなと思いました。



また、実修の3日目、4日目にはティアラあ〜とふる DAYS というイベントに参加させていただき、そこでは「人とティアラこうとうの関わり」というのをとても感じました。生まれたばかりのお子様から高齢者の幅広い世代が大ホールに集まり、江東区で芸術提携を結んだ江東区ゆかりの方々によるコンサートを聴いたり見たりできるという環境に素晴らしさを感じました。主にオーケストラやバレエが江東区ゆかりのコンサートだったのですが、それを地域の公会堂で、さらに低額で見られるというのはなかなか体験できるようなことではないので、その環境が幼い頃からあってそれを体験できるというのはかなり贅沢なことだなと感じました。観客にとっても憩いの場であり、コンサートをする側にとってもとても有意義な時間の過ごせるのがこのティアラこうとうの魅力であると考えました。

そして、3日目、4日目は働くとは何かについて考えた2日間となりました。私たちはインターンとしてティアラこうとうで働かせていただきましたが、お客様にとって私たちは社員のひとりになっていたので、クレームなども私たちが直に受け止めることしかできず、そこに、働くとは何か、責任とは何か、ティアラこうとうの一員になるとは何かについてを、とても考えさせられました。ただ、あの時にクレームを言っていただけのおかげで、「働く」、「一員になる」を改めて教えていただいたので、ポジティブに考えるとそのような経験はよかったのではないかと思います。

チラシ作成や舞台運営、アナウンスや小学校訪問など、そこで働いてみないと知らなかった業務というのがたくさんあり、今回はさまざまなことを体験させていただきました。体力的にも精神的にも大変な5日間ではあったのですが、日々変わるイベントやそれに参加していただいた方々の笑顔を自分の目で見ることができたので、そこには嬉しさを感じました。

台風も重なり、どのくらいの方々にお会いできるのかということも心配していたのですが、多くの地域の方々が来てくださり、ティアラこうとうへの愛もきちんと感じる事ができて、とてもやりがいのある職業体験になったと思っています。

後輩へのアドバイス

お客様に直接接するような仕事から事務作業まで様々なことをしなくてはならず、自分が思っている何倍も体力を使ったのではないかと感じています。また、お客様の中には良心的な方ばかりではないということを経験したので、その戸惑いを素早く解決できる力や、それを真に受け止めるメンタルなども必要であると感じました。会話が楽しめたり、舞台の裏側を知りたかったりいろいろな変化が楽しめる人はとても充実する実習となると思います。

